彼女の目

梅酒の梅子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
彼女の目

【Ｎコード】
Ｎ４９２０Ｂ

【作者名】
梅酒の梅子

【あらすじ】
放課後のあの子の目に映るもの…あの目はいったい…

（前書き）

初めて投稿させていただきました。読んで下さった方は何かアドバイスをくださるととても嬉しいです。それではどうぞ。

ガラッ

忘れ物を取りに来た俺。

ドアの音に反応してゆっくり振り向いた一人の少女。

放課後の教室で彼女は一人窓の外を眺めていたようだ。

その目で俺を見る。

「なぁ西園寺…」

「…」

「どーしてお前はいつもそんな目をしてるんだ?」

「…そんな目って?」

「いや、その…何もかもを見透かしたような目?」

「なーにそれ?私、何もかも見透かしてなんかないわ」

「いや…なんつーか、あれだよ…あぁ！！！何て言えばいいんだ！！！？？」

「クスッ…変な人」

ほんの少し笑って彼女は行ってしまった。
真冬だというのに上着も着ずにマフラーだけして。

彼女は本当に不思議な奴だと思う。

彼女はなかなか顔の表情をかえない。
大声で笑っている所を見たことがない。
泣いている所を見たことがない。
友達と楽しそうに話している所さえ見たことがない。

彼女は今幸せなんだろうか？

彼女は今何を思って生きているのだろうか？

…何で俺はこんなにも彼女のコトを思っているのだろう？

次の日の放課後も彼女は一人、窓の外を眺めていた。

「あら、また忘れ物？」

「いや違うよ」

「そう」

「なぁ…西園寺」

「何？」

「わかったよ、お前の目」

「…そう。それで、私の目はどんな目をしているの？」

「…俺を魅了する目をしている…」

「そう。」

「あぁ」

「だって、私の目は貴方しか映さないもの」

と言って彼女はまた小さく微笑んだ。

（後書き）

ありがとうございました。応援メッセージやアドバイスを是非下さい。お願いします（．．）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4920b/

彼女の目

2010年10月12日03時34分発行